





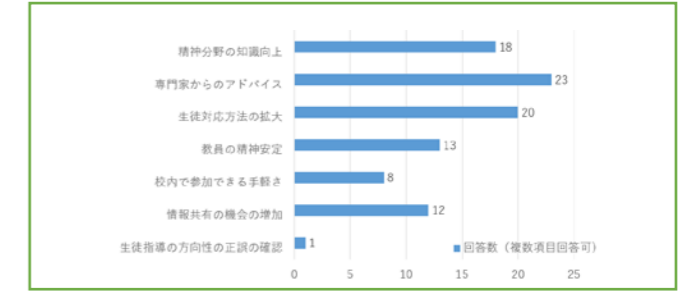
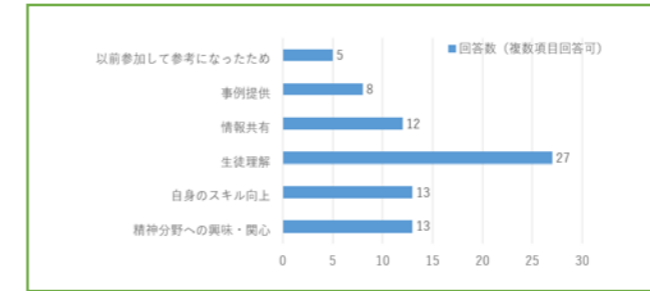
※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄
 No. D-3

【様式 2】

部門名： 校内研修部門	エントリー名： 宮城県田尻さくら高等学校 安住 ゆきえ 平成 30 年度教職員等中央研修 第 1 回次世代リーダー育成研修
活動名： 精神保健研修会の実践改革 精神医学と連携した生徒理解と支援	
解決すべき課題 本校では、精神疾患や発達障害を有し、専門的かつ特別な支援を必要とする生徒が多数在籍しているため、多くの教員は対応に苦慮している。当研修会は、月に 1 回程度、県と東北大学と連携して実施しており、毎回、精神科医から医学的見地や支援の手立てを助言いただいている。しかし、昼夕間定時制高校特有の勤務時間の多様化と、業務の多忙化により、教員が研修の必要性を感じていても参加が困難であった。そのため限られた環境の下、教員の研修への参加や学びの機会の確保と、生徒の理解と支援の充実につながる工夫や活用方法が必要であると感じ、新たな実践を試みた。	
目標・方針 ○「参加」だけでなく、「いつでも学べる機会の確保」という発想の転換に伴う新たな学びの手段の導入 ○助言者と教員が互いの立場を理解し、ともに学び・作り上げることを実感できる実践過程 ○生徒のメンタルヘルスへの理解と支援の充実と、教員のメンタルヘルスの維持と向上	
活動内容 (下記の写真や資料は活動内容に関連するもの) <ol style="list-style-type: none"> 1. 「研修会のビデオ撮影とデータ保存」：各教員の時間やスキルに合わせた活用 (各データは年度末に DVD 保存し施設下で保管の上、事例対象生徒の卒業時点で破棄する等、個人情報厳重に管理) 2. 「資料書式の統一」：事例の要点が把握しやすい統一した項目の書式を作成 3. 「フィードバックの充実」：疑問解決や相互理解促進のための助言者と教員間のフィードバックの充実 4. 「遠隔操作による試験的实施」：インターネットを介した遠隔操作による研修会の試験的实施 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">1 </div> <div style="text-align: center;">2 </div> <div style="text-align: center;">3 </div> <div style="text-align: center;">4 </div> </div>	
活動の成果 ○ビデオ撮影とデータ保存により、各教員の時間とスキルに合わせて繰り返し視聴し学べる機会が確保できた。 ○データ保存により、年度や担当者の変更に問わず支援継続ができ、他生徒への手立ての参考にもなった。 ○資料書式の統一により、資料作成の負担軽減と研修時間内での事例内容の要点把握と理解が促された。 ○フィードバックの充実により、助言者と教員の相互理解・作用が高まり、主体的でより深い学びにつながった。 ○精神科医の適切な助言や対応への評価は、教員のスキルアップやメンタルヘルスの維持と向上につながった。 ○遠隔操作による試験的实施の成功に伴い、今後のサテライトによる研修会実施への可能性が拡大した。 ○参加教員から、研修の効果や継続を要望する多数の感想を得ることができた。(添付資料 2)	
アピールポイント (アイデアや工夫) ○研修会の実施の意義と方法を工夫することで、各学校の現状や環境に関係なく学ぶ機会を確保できる。 ○当研修により生徒への理解や支援が充実するほか、教員のメンタルヘルス保持や向上を図ることもできる。 ○今年度から新たに、本校の実践方法をモデルとした同研修会が、県内の他の 2 校でも実施が開始された。	

〈添付資料 1：研修会参加の動機 (左) と研修会の利点・効果 (右)〉 ※有効回答人数 28 名



〈添付資料 2：研修会参加者の感想〉

●専門的理解について●

- 自傷行為による様々な問題について、今までの認識とはかなり違う解釈をするべきであるということに気づかされ、大変勉強になりました。
- 統合失調症と自殺の関係性についてよく分かりました。基本的に学校での対応があまり間違っていない、生徒が「死にたい」という辛い気持ちを言えることが重要、その気持ちをキャッチできたことは大きいなど、今後の指導にも十分生かせる見解をいただきました。
- うつとリストカットとの関連や自殺念慮・企図等、自殺までの基本的な段階の知識について教員も身につける必要があると改めて感じました。
- 「起立性調節障害」への捉え方や考え方、学校におけるアプローチの仕方について、松本先生からの助言から見いだせたように思います。これまで、この疾患名に多くの教員が対応に苦慮してきました。今後も、体の問題に原因があっても説明がつかない場合は、精神的に問題がある可能性があることを学校現場でもしっかり理解し、校内外の関係専門職と連携を図りながら適切な対応をすることが重要だと感じました。
- 回避性パーソナリティ障害と不登校、ひきこもりとの関連について知ることができてよかったです。一見、精神保健との関係が見えにくい事例であっても、松本先生からのご助言から新たな学びを得ることができ、非常に参考になります。
- 生徒の性格的な要素と脆弱な家庭環境、現在の学校生活の様子をもとに現況からの環境変化を恐れているのでは、という推察にその可能性は大いにあるだろうと感服しました。今回の対応についても的確にアドバイスを頂き、チューターにとっても非常に心強い指針になりました。

●研修の意義や在り方について●

- 研修のビデオデータがあり、当日の参加や時間を問わずいつでも学べるようになり助かります。今後は他の生徒の支援の参考資料にもします。
- 問題をかみ砕いて突き詰められるこの機会には有難いです。専門的知識が不足している分、この研修会が教員のスキルアップになっていました。
- 学校という環境で、教師と生徒という関係が強くなるにつれ、どうしても抜けてしまう視点があるような気がしていますが、精神科医の立場からの見立てや助言は、生徒を理解するための新しい気づきや今後の関わりについて考えるための最良の機会になっています。
- 生徒個人の問題について専門家の意見が伺えると同時に、多方面から先生方の意見を伺える機会であり、大変貴重な時間でした。
- 教育的アプローチでは限界を感じていたが精神医学的な見地からの対処方法に可能性を感じました。また限界を知りとても参考になりました。
- 多くの先生方が対応に苦慮している生徒の事例であったため、職員全体で実態把握と対応の共有ができて、良かったです。
- 毎回、目からウロコが落ちるようなアドバイス、ありがとうございました。色々な表現の言葉を使い、様々な角度から症例を分析していただき、とても勉強になりました。このような学校と医療の連携は今後、益々重要になると感じています。
- 様々な問題を抱える生徒が在籍しているため、今後も研修会の実施を継続していただきたいです。県の予算もありますが今回のようなインターネットを介した遠隔操作での実施が可能になったことで、この研修会が多くの学校に広まり、生徒の支援が充実することを望んでやみません。

●教員のメンタルヘルスへの効果について●

- いつもこちらのモヤモヤをすっきりさせていただいています。生徒の問題背景や原因が分かり、自分のストレスもスッと軽くなるような気がします。
- 教育という側面からの見方では判断できない内容が、角度を変えると別な内容に聞こえてくるので大変勉強になりました。研修を受ける度に、自分の指導に自信がもてました。
- 毎日この対応でいいのだろうか、間違っていないだろうか悩む日々でした。先生に「その対応を今後も続けてください」と言われ安心しました。
- 生徒理解が深まり、心に余裕ができ、どう考え接して行くべきかまで分かるような一石二鳥の研修会でした。次年度はもっと参加したいです。